

ビワ

【区画①(3), 区画⑱(111, 114), 区画㉔(158)】

学名	<i>Eriobotrya japonica</i> (Thunb.) Lindl.	分類	バラ科ビワ属
分布	西日本の一部に自生, 果樹として庭園に栽植	樹高	3~8m程度の常緑高木

〈特徴等〉

名前の由来	・ 果実や葉の形が楽器の琵琶と似ていたことから成る。		
葉の特徴	① 常緑 ・ 落葉	② 広葉 ・ 針葉	
	③ 対生 ・ 互生	④ 単葉 ・ 複葉	⑤ 鋸歯縁 ・ 全縁
開花等	・ 初冬(11~12月)に白色の花を咲かせる。		
結実等	・ 5~6月になると果実が黄色に熟す。食用となる。		
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 葉は生薬やお茶, お灸, 入浴剤等に使用され, 医者いらずの木とも言われる。 ・ ビワの葉の裏面には毛が密生する。 		

〈写真〉

		
樹木 (6/12)	樹皮 (6/12)	葉の付き方 (6/12)
		
葉 (6/12)	花 (/)	果実(実) (6/12)

〈参考文献〉 林 将之 (2018) 『葉で見わける樹木 増補改訂版』 小学館, p. 78.